

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 宮北小学校
校長氏名	宮本 茂
作成日	平成 30年 3月 11日

1 教育目標

心身ともに健やかで、たくましく生きる子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観とともに、ふれあいの集いでは講演会も開くことができた。ほかにもゲストティーチャーの授業や集会発表のときには、子どもたちの学習の様子を参観していただいた。 ・地域や保護者の皆様方の子ども見守り活動のお陰で、本年度登下校時の交通事故がなく、また、校区での不審者出没の連絡も1件しかなかった。今後も地域、保護者、学校が連携して子どもの安全に取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校活動は、6年生が中心になり、1年間縦割り活動に取り組んだ。子どもたちは生き生きと活動できた。6年生は最高学年としての自覚を身につけることができた。 ・避難訓練や道徳、人権教育等、いのちを大切に学習に取り組んだ。一度の指導ではなかなか身につけたい。今後も学年ごとに計画的に進めていきたい。 ・年間を通して、毎日10分間の読書タイムを設定して取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、「めあて」を明確にし、終末には「振り返り」の場面を設定した。また、「考える」場面を設けるようにした。 ・毎日帯の時間帯を設定し、基礎学力の充実や読書の取組を行った。 ・自分で目標を決めて「漢字の博士試験」に取り組んだ。 ・全学年で「聞く」「話す」目標を設定し、子供たちに授業の中で意識させた。 ・家庭での学習として、「自学ノート」を活用して自主的な学習を促した。
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と協力しながら、登下校時の見守り活動を行った。また、秋の「ふれあいの集い」では、見守り隊の方々を招いて子どもたちとともに感謝の気持ちを表した。 ・授業参観と学級懇談会をもち、学校や学級の取組を知らせる機会をもった。中でもふれあいの集いでは、普段の学習のときは違う子どもたちの様子、子ども同士の交流も見ていただくことができた。 ・地域の方々をゲストティーチャーとしてお招きして、ミシンの使い方や昔の遊び、薬物濫用、絵手紙などの指導いただいた。また、地域や地域の施設を利用した学習にも取り組んだ。 ・和歌山市の教科等研究会と連携し、教材研究や授業研究に取り組む、研究発表会を通して本校の取組を発信することができた。 ・webページ上に、子どもたちの活動を通して学校の様子を紹介するようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の「全校活動」は、本校の特色ある取組の1つである。全校を14グループに分け、6年生がリーダー、5年生がサブリーダーとなり、各月の活動内容を考え、グループごとに活動した。高学年としての自覚と自尊感情が育つ活動になった。 ・「いじめアンケート」を年間3回実施し実態把握に努めた。道徳の時間や各教科等の学習で、命の大切さや人を思いやる心を育てようとした。また、交通安全教室(1・2年生)や正しい自転車の乗り方指導(3年)、禁煙教室(4・6年)、薬物乱用防止教室(5年)などを、また、助産師に命の誕生についても指導いただき、自分の命を大切にすることを学んだ。 ・読書の楽しさを知らせるために、1・2年生に「読み聞かせボランティア」による読み聞かせを年間3回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、理科の学習を研究の柱として、授業実践と授業研究(全教員が1実践を提案)、協議を重ねた。校内研修の充実と授業研究を通して、授業力、教師力の向上と児童の学習規律の確立に努めた。 ・どの学習でも、学習課題を明確にし、子どもたちが見通しをもって取り組めるよう心がけた。また、体験的な活動、話し合う活動、かく活動を大切に取組むようにしてきた。 ・毎朝10分の読書タイムと昼15分間の「学びたい!ム」を設定し、基礎学力充実の時間とした。さらに、放課後、曜日を決めて「スキルUPタイム」を設け、補充学習を行った。 ・「聞く」「話す」についての目標を教室に掲示し、意識させながら取り組んだ。 ・「自学ノート」を用意し、自主的な家庭学習に取り組ませた。授業の予習や復習などの習慣化につながった。
(評価結果【G】)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の保護者アンケートの「学校は教育活動や児童の様子を十分に発信しているか」という質問では、88.1%の肯定意見だった。各担任が学級だよりなどをこまめに出して情報発信が進んだことが一因であろう。 ・地域の方々には、何度かゲストティーチャーとして来ていただき、指導者として参加いただいた。地域を知り、地域の人を知るものとする。 ・高学年では、専門家に来ていただき、情報モラルの学習にも取り組んだ。授業参観で取り組んだので、保護者にもスマホの使い方などの啓発ができた。 ・学校全体の情報発信が不足した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで「学校が楽しい」と応えた児童が95.3%で最近では最も高かった。また、「友達となかよくしている」も95.9%と高い結果となった。また、「自分や人の命を大切にしている」は89.4%だった。 ・アンケートでは「気持ちのよいあいさつをしているか」については、児童は79.3%、保護者は72.3%と低い。見守り隊の方からも「あいさつが少ない」「声が小さい」とのご指摘をいただいている。 ・豊かな読書をめざして、図書室の開放や読み聞かせなどに取り組んだが、アンケートで「家庭でよく読書している」と応えた保護者は20.8%だった。読書タイムを設け、学級文庫を増やすようにしているが、読書量は増えていない。 ・「みんなはきまり守っている」と応えた児童は75.9%しかなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に行ったアンケートでは、「毎日の勉強がよくわかる」は93.5%で、昨年より高くなった。保護者アンケートの「学力がついていると思うか」でも90.6%と近年では最も高かった。一定の評価は得られたが、さらに、より高い数値をめざして授業力を高めたい。 また、児童アンケートでは「授業でよく考えることが多い」は92.4%あったものの、「授業で考えを話したり文章にしたりすることが多い」は75.9%とやや低かった。考える授業、話し合う授業を進めたい。また、「掃除を一生懸命する」(81.7%)や「学校は整理、整頓されている」(87.6%)は、課題が見られた。何事にも丁寧に取組む指導が必要である。 ・家庭学習の習慣は保護者アンケートから少しよくなり76.7%であった。自学ノート等を活用した家庭学習が定着しつつあると思われる。さらに習慣化できるよう宿題のあり方、家庭学習の方法についても指導していきたい。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々や外部の人材をゲストティーチャーとしてきていただくことが増えてきた。地域の人に学ぶ、地域の施設で学ぶための題材は豊富なので、より一層地域を活用した学習に取り組みたい。 ・新しい学習、道徳科や英語の取組状況について伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者のアンケート結果から、「あいさつ」や「きまりを守る」などに課題が見られた。児童会とも連携しながら児童の意識を高める取組を考えていきたい。 また、読書についても時間、量ともに少なくなる傾向がある。図書室の開放と図書の一層の充実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実をめざして、「家庭学習の手引き」の作成をめざしたが、本年度保護者に配布することができなかった。次年度の早い時期に配布できるように努めたい。 ・学力向上については、使命であり、課題でもある。児童の学力も二極化傾向があるため、個別の指導も含めて全教員で取り組む。

3 その他の課題

・校区やその周辺には、JR和歌山駅や様々な商店、歴史的遺産等が数多い。生活科や総合的な学習の時間に、地域にある事物や事象を学習対象とし、地域住民から話を聞いたり、情報を収集したりする学習に取り組みたい。

・相手に伝えることを意識して、声の大きさや話す内容を工夫させるために、人前で話す機会を増やしたい。そのために、学級発表などの児童集会の充実をめざしたい。